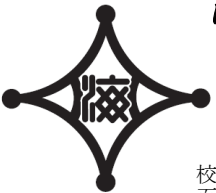


海蔵



令和三年六月九日(水)

子どもたちを伸ばしていくために

先般、地域の方から子どもたちの登下校のようすについて、二件のお電話を頂戴いたしました。一件は歩車分離されていない道路を広がって歩くこと、もう一件は小石などをけりながら歩くことについてでした。

早速、全校放送による指導とともに、各担任から学級指導を行いました。さらに、登校班ごとに子どもたちを集め、個別に事情を聴き取り、再度指導いたしました。

こうしたことは、前から度々ご指摘を受けながら改善できておらず、大変残念に思っております。地域の皆様方からの子どもたちの安全や健全な成長を願うお声を学校全体で受け止め、粘り強く指導を続けてまいります。

今回いただいたお電話で特に残念に思ったことは、地域の方にご注意いただいた子どもたちが知らん顔で通り過ぎようとしたことです。

また、保護者や地域の方から、登校班の中での上級生のリーダーシップにも課題があるとのこと指摘を受けることもあります。さらには、「挨拶をしても返ってこない」とか、横断歩道で一旦停止してくださった車のドライバーの方からは、「お礼の言葉やしぐさが見られない」といった内容のお話を頂いた事もあります。

こうした実態は、本校のめざす子ども像である「誠実・規律・勤勉」と大きく乖離したものと云わざるを得ません。本校の大きな教育課題であると捉え、道徳教育をはじめとした教育活動全体を通じて、克服に向けて取り組んでいかなければならないと考えています。

もちろん、進んで挨拶ができる子どもたくさんいます。また、低学年の子をきめ細かに気遣い、優しい言葉掛けができる高学年の子も大勢います。そうしたようすを見かけたときは、どうかお声がけをいただけたらと思います。子どもたちを伸ばしていくためには、学校のみならず社会全体で見守っていくことが大切であるといわれています。これからも学校・家庭・地域の連携を宜しくお願いいたします。

偏見、いじめ・差別がない社会を目指して

Aさん、Bさん、わたしの三人で話をしながら歩いていました。Aさんが、「ねえねえ、今日、Cさん、授業中に咳をしていたよね。コロナだったでしょ」とふざけた感じで言いました。するとBさんも「ぜったいコロナだよ、コロナ。明日学校に来ないでほしいよね」と笑いながら言いました。わたしもつい、「そうだね。学校に来ないでほしいね」と言っていました。わたしは、「何かもやもやするなあ」と感じていました。

この文章は、三重県教育委員会が作成した人権学習指導資料に掲載されている、小学生（中学年）用の教材です。何気ないうわさや、感染者を特定しようとすることは、差別や偏見につながる許されない行為です。

こうした資料も効果的に活用し、感染症に係る偏見、いじめ・差別を許さない教育をさらに進めてまいりたいと考えています。

現在、「すぐメール」等でご確認いただいている通り、市内の小中学校でも感染する児童生徒が出ている状況です。

本校においても日々の感染防止対策を着実に進めるとともに、万一、感染が確認された場合には、教育委員会や保健所と連携して的確に対応してまいります。

感染は決して他人事ではありません。誰もが不安を抱えている中、差別や偏見が結果としてウイルスを拡散させる（ウイルスに負けてしまう）ことも伝えていきたいと思えます。

愛媛県の有志グループが「シトラスリボンプロジェクト」を立ち上げ、ウイルスに感染しても安心して戻ってくるができる社会を実現するための運動を進めています。愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、

「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めているそうです。詳しくは、下記アドレスを参照ください。



Citrus Ribbon PROJECT